慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	本庄栄治郎著 幕末の新政策
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1936
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.30, No.4 (1936. 4) ,p.585(163)- 586(164)
JaLC DOI	10.14991/001.19360401-0163
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19360401-0163

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

本庄榮治郎著

幕末の新政策

加田哲二

二百數十年の太平生活を續けて來た德川時代も、その末期に至つては、甚だしい動搖と不安とを持つ社會となつた。殊に天保改革の失敗以後、嘉永の外船來航を迎へるに至つて、政治的・經濟的不安は、封建制維持の困難なことを當時においてすら、自覺せしめたのであつた。

かゝる政治上並に經濟上の不安動搖に對して、幕府諸侯は、何をなしたか。または何を爲さんとしたか。この點について、從來の歷史家は殆んど記することがない。幕末維新を論ずるもの、多數は、政治的推移の記述に專らであつて、社會的不安・經濟的動搖・財政政策等を研究の對象とするものが少ないのである。殊に、幕府の經濟政策についての研究の行はれたものは殆んどないといつてよい。しかるにいま本庄榮治郎氏の「幕末の新政策」は、今日にいたるまで多く顧みられることなくして、打ち過ぎてゐたこの方面の研究である。滅亡に近づいた幕府は、その窮迫的狀態を脫出せんとして、如何なる政策を採つたか。これが本書の研究題目である。

本書は、これを三部に分つてゐる。その第一部は序論であつて、江戸時代概觀と題されてゐるが、この部分は、

研究への序論で、著者の從來の研究の一般的叙述である。それを六千餘頁に記述されたのである。第二部は、幕末の新政策概論であつて、幕府の新政策に關する概觀的記述であつて、多くの史書には、明治政府によつて始めて實行されたかの如く記されてゐる會社（商社）の設立、洋式工業の輸入に關する事項などの外、軍事・財政・貿易に關する新政策及びその計畫が記されてゐる。これらの新政策は幕府の窮迫狀態を救ふに足らず、失敗の如くであつたが、その多數は、明治政府の手によつて、發展せしめられ、新政府の基礎となつたものである。

第三部は、第二部における記述の中、特殊の問題についての論文集である。それは次の如きものである。（一）參覲交代制度の變革附郡縣制度採用の議、（二）レオン・ロシュと幕末の庶政改革、（三）國益主法掛について、（四）幕府の紙幣發行、（五）幕府の物產會所設立計畫の五論文である。これは新政策概觀篇に對する詳細な說明であつて、本書の主要部分である。この中われ〳〵の特に興味を惹くのは、第二、第三及び第五であつて、沒落せんとする幕府が、如何にそれを避けるために努力したかを示すものであり、從來この方面における研究が、處女地として放置されてゐたので、本庄氏の研究は、以後の研究への出發點としても、意義あることである。既に述べたやうに、從來の幕末維新史は、あまりに多く政治史的であり、幕府側の研究を閑却してゐる。而して、明治政府の政策は、舊幕府の政策を踏襲したものが多いのであるから、その研究は、是非必要である。近來、幕末維新史の幕府側からの研究が行はれるに至つたのは、歷史の正確を期する上において、甚だ喜ばしい傾向であるといふべきである。本庄氏の本書の如きも、その傾向を更らに新らしい部門に向はしめるものとして、われ〳〵を敎ふるところ大なるものがある。殊に、德川時代全般の經濟史に關する專門家の研究であるだけ、時代全體との關聯を忘れてゐないことは、本書の學問的價値を高めるものであらう。（有斐閣　定價三圓二十錢）

前號（第三十卷第三號）目次

●經營社會學、經營社會政策、勞働者心理學　藤林敬三
●現代國家財政の類型　高木壽一
●貨幣的景氣理論上に於ける金利の地位に就て　山本登
●六鄕川渡船について（社會經濟資料紹介）　野村兼太郎
●新刊紹介　寺尾琢磨
●古版經濟書解題　サー・エドワード・ウエスト著一千八百十五年版「土地に對する資本の適用に關する論文」　高橋誠一郎

●一冊定價金五拾錢
●半ケ年分金貳圓九拾錢
●一ケ年分金五圓四拾錢
郵稅金壹錢五厘
郵稅共
●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限
昭和十一年三月三十一日印刷納本
昭和十一年四月一日發行
毎月一回一日發行
三田學會雜誌
禁轉載
第三十卷第四號
發行兼編輯者　東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾內　江田範保
印刷者　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子鐵五郎
印刷所　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子活版所
發賣元　東京市芝區三田二丁目一番地　丸善株式會社三田出張所　電話三田(45)一九二六番　一九二七番　振替口座東京一八五二番
●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す
發行所　東京芝三田慶應義塾內　理財學會　振替口座　慶應義塾　芝區三田二ノ二　東京一八二〇四番